

# マレーシアの初等教員養成における 美術教育自己啓発カリキュラム

福田 隆 眞

Penyuburan Diri Mengenai Pendidikan Seni dalam  
Sukatan Pelajaran Diploma Perguruan Malaysia

Takamasa FUKUDA

(Received September 28, 2001)

## はじめに

マレーシアの美術教育に関して、筆者は既に教育課程と学校教育、教員養成の実践を通して調査を進めてきた。<sup>(註1)</sup> 本稿では、1999年にマレーシアの教育課程の中で新たに設置された初等教育とその教員養成で実施される自己啓発のカリキュラムについて、教員養成でのシラバスを基にその内容を解説する。

## 1 自己啓発のカリキュラムの設定

自己啓発のカリキュラムは教科の教育と育成すべき人間的資質を教科の縦割りで捉えるのではなく、教科の教育内容とそれによって育まれる資質を柔軟に育成するものであり、最終的には教科との関連を想定しているが、初等教育段階での有機的な資質の関連を重視したカリキュラムである。美術教育においても、総合的な人間形成の一部として教科を捉え、教員養成において修得すべき内容を明示している。

自己啓発の基本的な考え方では、人間の資質を次の7つに設定している。言語的資質、論理的資質、空間的資質、聴覚的資質、運動的視質、自律的資質そして人間関係的資質である。<sup>(註2)</sup> 美術教育との関連は空間的資質として想定され、人間が生活する上で適切な空間的把握が出来るように教科を位置づけている。勿論、美術教育の有する特質はそれだけではないが、初等教育の教育内容として最低限必要な資質を取りあげているのである。

## 2 美術教育における自己啓発<sup>(註3)</sup>

美術教育の自己啓発は学生に芸術的興味、能力、個性を発達させる機会を与えることを目的と

する。この分野はまた、学校での教育や学習方法において、様々な芸術的価値に対する意識や感覚を明らかにし、それらを体験させることが出来る。学生は実際に視覚言語を通して、試行とアイデアを伝えることが出来るはずである。

美術教育の自己啓発は、知覚、審美観、創造力の向上を通して、学生個人の資質を発展させる役割を果たし、援助するものである。美術の活動は、伝達メディアとしての美術、生活や環境の美術、伝承し評価すべき国家の文化や文明の象徴を成している文化遺産としての美術などの役割を持っていて、それらの文脈の中で美術の活動が行われている。

世界の流れを知り、世界的な教育水準に対応できる人材を育成するために、学生はマルチメディア技術と技術革新を用いることを明らかにする必要がある。こうした目的を果たすために、学生は現代の技術を体験する必要がある。例えば、道具としてのコンピューターを使う能力、学習の道具として、美術の作品制作における自信を高めるような、自分自身の学習としての道具であるマルチメディアのアプリケーション等である。

この分野で特に目的とすることは、文化的で技術を持つ人材を生み出すことにある。

### 3 自己啓発カリキュラムの内容

美術教育の自己啓発は、批評と創造的な思考のバランスをもつ美術教育の分野での、知識と技能を修得できる教員を養成することを目的としている。対象はマレーシア教員養成ディプロマコースの学生であり、特に次のような分野を強調している。

- ・ 知覚と審美観
- ・ 美術の鑑賞と批評
- ・ 美術制作

そして、これらのことを通して、以下のような内容を目的としている。

- ・ 表現、鑑賞、制作のそれぞれの能力と批評や創造力のように、視覚言語に沿った知識能力を使って相互交流を行う能力を発達させる。
- ・ マレーシアの文化と文明の発展において、芸術の役割に対する理解、尊敬、感覚を高める。
- ・ 美術教育の自己啓発の分野において、必要なものを満たすために、知識、マルチメディアの能力、情報技術を使用する。

また、プレゼンテーションの戦略として、美術教育の自己啓発は様々なアプローチ、戦略、方法、技術を通じて遂行され、このことによって、道徳的な仕事、社会の評価、文化遺産、宗教に対する生徒の認識を高めることが出来るとしている。そして、戦略の提案とプレゼンテーションの技術は以下の内容によって構成されている。講義、実践と反映／美術批評、提示方法／デモンストレーション、研究と開発、調査発見、討論、訪問、研修、フォーラム、セミナー、プロジェクト、スクラップブック、フォリオ、ブレンストーミング、問題解決である。

具体的な授業内容としては以下のものがある。

(1) 知覚と美術思考 (10時間)<sup>(註4)</sup>

目的

- ・美術の要素、原理、造形の構造を知り、理解する。
- ・具体的、抽象的な対象に対して、感覚的経験と共感的経験を通して美的センスを修得する。
- ・視覚的感覚と触覚的価値に対する知覚力と美的反応を高める。
- ・創造的な美術制作の作品作りの経験を通して、美的知覚力を発達させる。
- ・日常生活における美術について、作品制作、評価、楽しみ、コミュニケーションを目的とする美的な配慮を形成する能力を高める。

内容

このコースは、情緒や批評、そしてダイナミックな思考や個性を形成するとともに、創造的な美術作品の制作をするために、感覚と感情を通して対象物と環境に対する美的知覚経験を拡大することを中心としている。

このコースでは育成する能力として、美術の要素の種類、造形の原理と構造を知ることにある。また、原理や構造とともに美術の要素を使用することが出来ることである。そして身の回りの環境において、美術の基礎の存在を知り、感知することである。

また、活動の過程を通して、視覚的な表現のための審美的な価値を修得することにある。創造的な制作活動を通じて表現を明確にし、美術活動によって審美的判断のための強調点を修得する。さらに審美的な質の変換のために、材料とメディアを使える能力を育成することである。

テーマと時間配分

- 1 美術基礎 7時間
- 2 芸術的創造的過程 3時間

(2) 美術制作1ー絵画 (5時間)<sup>(註5)</sup>

目的

- ・絵画のメディア、技術、方法を使いこなす能力を修得し、確実なものとする。
- ・絵画の原理と構造についての知識と技能を育てる。
- ・知覚、思考、美的経験を視覚的形態に変換する能力を高める。

内容

このコースは、思考、知覚、美的経験を変換させることによって、絵画の原理と構造を実践することで、様々な絵画のメディアを使いこなす能力を中心としている。絵画の内容としてメディア、用具と材料、絵画の原理と構造、絵を描く法則、絵画技術、遠近法等が含まれている。そし

て育成する能力として以下のようにになっている。

#### テーマと時間配分

- 1 絵画 3時間
- 2 彩色 2時間

そして育成する能力として以下のようにになっている。

- 1) 様々な技法や材料、メディアの応用を知り、効果の相違について知る。
- 2) 視覚的形態において、遠近法の表現のための試作をする。
- 3) 絵画の技法としては、距離感、空間感、雰囲気等を明らかにするための様々な技法を使用する。
- 4) 様々な絵画の技法を使用して描く。
- 5) 様々な彩色の技法を使用して描く。

#### (3) 鑑賞と美術批評 (3時間)<sup>(注6)</sup>

##### 目的

- ・美術作品についての記述、分析、解釈を通して知覚と評価をすることを修得する。
- ・審美的な認識と評価に対する心情を養い、美術作品について視覚的な記述を通して、口述によって伝達できるようにする。
- ・美術家の作品や仕事、美術に対する考え方を評価、分析し、鑑賞活動を通して個性と専門家としての資質を高める。

##### 内容

このコースは、ものに対する審美的な反応を刺激する活動と言葉や視覚美術を媒介としたコミュニケーションを可能にする環境作りを中心とする。

#### テーマと時間配分

- 1 美術批評の過程と原理 1 3時間
  - 1.1 心理学的アプローチ
    - 1.1.1 自分自身の経験
    - 1.1.2 他人の経験と意見

育成する能力として以下をあげている。

- 1) 適切で確実な考え方と分析を提案させるために、的確な視覚言語を使用する。
- 2) 批評することを通して美術を理解し価値を認識する。

(4) 美術制作 2 –デザインと構成 (10時間)<sup>(注7)</sup>

目的

- ・デザインと構成の活動において、知識を活用して、メディア、材料、制作過程、制作技術を使いこなす能力を養う。
- ・芸術的創造的な制作過程において知識を高める。
- ・作品制作の過程に含まれる純粋な価値や積極的な仕事を理解し経験する。
- ・美術作品の仕事を通して知覚力と審美的批判力を高める。

内容

このコースは模様のデザインやグラフィックデザインの活動を基礎として、その制作過程を管理する活動を目的とする。

テーマと時間配分

- 1 模様のデザイン 4時間
- 2 グラフィック 8時間

育成する能力として以下をあげている。

- 1) 模様のデザインとグラフィックの活動において、美術の基礎を理解し視覚言語を使用することを勧める。
- 2) 模様のデザインとグラフィックの活動において、用具、材料、制作過程を使えるようにする。
- 3) 模様のデザインとグラフィックの活動において、審美的な考え方と過程が分かるようにする。

(5) 鑑賞と美術批評 (2時間)<sup>(注8)</sup>

目的

- ・美術作品について記述、分析、解釈を通して評価する能力を育成する。
- ・審美的な認識と評価を基本として、美術作品についての視覚的な内容を言葉で伝達する能力を高める。
- ・美術家の仕事の価値と美術的思考の内容を分析し経験する活動を通して、個人の専門家としての質を高める。

内容

このコースは美術作品を身の回りのもを対象として、美術に関する言葉を使ってコミュニケーションが出来る能力を高めるために、審美的な反応を刺激する様々な活動を目的とする。

## テーマと時間配分

- 1 美術批評 2 の過程と方法
- 1.1 論理的アプローチ 2 時間
- 1.1.1 美術の観察過程
- 1.1.2 美術評価の過程

育成する能力として以下をあげている。

- 1) 適切で確実な考え方と分析を提案させるために、的確な視覚言語を使用する。
- 2) 批評することを通して美術を理解し価値を認識する。

## (6) 美術制作 3 - デザインと構成 (13時間) (注9)

### 目的

- ・デザインと構成の活動において、メディア、道具、材料、制作過程に関する知識と能力を修得し使いこなす。
- ・芸術的創造的な制作過程において知識を高める。
- ・作品制作の過程に含まれる純粋な価値や積極的な仕事を理解し経験する。
- ・美術作品の仕事を通して知覚力と審美的批判力を高める。

### 内容

このコースは美術活動を基礎として、その制作過程を管理する活動を中心としている。

## テーマと時間配分

1. デザインと工作 (1つ選択) 10時間
- 1.1 人形
- 1.2 お面
- 1.3 現代的なワヤンクリ
2. 展覧会活動 3時間

育成する能力として以下をあげている。

- 1) 美術活動において美術の基礎的な理念を理解し、視覚言語を使用することを勧める。
- 2) 美術活動に関わる用具、材料、技術、制作過程を使用することが出来るようにする。
- 3) 美術活動において審美的な考え方が出来るようにする。
- 4) 演劇において美術作品を使用することが出来るようにする。
- 5) 演劇や音楽会の展示の役割を知る。

#### 4 ま と め

以上はマレーシアの教員養成での初等教育の自己啓発シラバスの美術教育に関するものである。自己啓発のシラバスは1999年に公表され2000年から実施されている。初等教育においては我が国と同様に全人格的な形成を目指して教育が成されている。そのためには教科の教育を厳密に基礎とすることも重要であるが、教科横断的な人間的資質の形成を目指す資質の育成ということも重要となる。前述の7つの資質は教科との関連を窺うことは出来るもの、全ての教科が同じレベルで扱われている。従って教員養成においても、美術教育は教師として必要な資質の形成のための一つの教科として取り扱われているのである。

翻って、我が国の近年の教育職員免許法の改訂においては、教科専門の単位数も科目数も減少してきている。教員の資質向上を考慮するならば、実践的な教育内容も重要であるが、基礎学力を保障するための教科内容の充実と、初等教育段階での全ての教科の内容修得は最低限必要であると考えられる。

教員養成としての美術教育を考える上で、初等教育段階でマレーシアに見られるように時間数だけでなく、教科内容の分野においても今後充実をする必要がある。それは、単に読み・書き・計算という基礎学力の向上という意味ではなく、豊かな感性を持った教員としての資質向上のための芸術や芸術的感覚の修得の必要という意味からである。人間的資質の充実と教科内容の充実の両輪がバランスよく回転することで、真の意味での資質の高い教員養成が成され则认为。

#### 注

- 1 筆者は既にマレーシアの美術教育に関して以下のものを発表した。「マレーシアにおける美術教育教員養成シラバスについて」(福田隆眞、佐々木宰、北海道教育大学紀要第50巻第1号、1999)、「マレーシアの教員養成における美術教育について」(福田隆眞、佐々木宰、釧路論集代31号、1999)、「マレーシアの教育課程に見られる初等美術教育について」(福田隆眞、佐々木宰、山口大学教育学部研究論叢第49巻第3部 1999)、「マレーシアにおける美術教育調査報告1999」(福田隆眞、佐々木宰、山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第11号、2000)、「マレーシアにおける中等美術教育カリキュラム」(福田隆眞、佐々木宰、山口大学教育学部研究論叢第50巻第3部、2000)、「マレーシアにおける初等学校美術教育と教員養成」(福田隆眞、佐々木宰、大学美術教育学会誌代32号、2001)
- 2 マレーシア教育省カリキュラム開発センター、ザイディ氏の説明によるものである。
- 3 このことについては以下の文献によるものである。

BAHAGIAN PENDIDIKAN GURU KEMENTERIAN PENDIDIKAN MALAYSIA,  
SUKANTAN PELAJARAN DIPLOMA PERGURUAN MALAYSIA, PENDIDIKAN  
SENI(PENYUBURAN DIRI), JULAI 1999

- 4 前掲書 3 pp.5-7
- 5 前掲書 3 pp.8-11
- 6 前掲書 3 pp.12-13
- 7 前掲書 3 pp.14-15
- 8 前掲書 3 pp.16-17
- 9 前掲書 3 pp.18-19